

令和7年度事業計画ロードマップ(進捗状況と今後の予定)

中期計画					備考	令和6(2024)年度事業計画	現在までの進捗状況	令和7(2025)年度事業計画	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
課題分野	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要								
教育 改革 プロジェクト	①QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(期間中に5科目以上) ②共同FD・SD(短大系含む)の実施(期間中に15回以上) ③共同研究の実施(期間中に10件以上) ④共同IRによる共通調査等の実施(期間中に5件以上) ⑤高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(期間中に5件以上) ⑥地元就職支援に係る地元企業との連携事業(期間中に5件以上) ⑦リカレント教育の講座等の実施(期間中に10件以上)	A・QSP科目群創出WG(国際大)	A-1	・教材開発、教材データベース	・これからの時代に求められるデジタル人材の育成に資する情報教育や、地方創生に貢献する上で基盤となる地域の学びに関する内容につながる教材の開発と教材データベースの構築を行い、それらが参画校の授業の中で活用される仕組みづくりを目指す。取り組みを発展させるため、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進める。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校間で協議・検討する。	デジタル社会の進展で、デジタル人材育成は、その重要性は一段と増している。また、データ活用が一層重視される中、文理を問わず情報教育が行われることが求められる。データサイエンスやプログラミングなどに苦手意識を持つ学生も学びに活用することのできる教材の作成について、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進めている。 関連する内容による共同SD・FDを実施したことで、課題を共有し、他の事業と合わせて取組を進めた。	・これからの時代に求められるデジタル人材の育成に資する情報教育や、地方創生に貢献する上で基盤となる地域の学びに関する内容につながる教材の開発と教材データベースの構築を行い、それらが参画校の授業の中で活用される仕組みづくりを目指す。取り組みを発展させるため、他のWGとも協働で取り組むことも踏まえた参画校との検討を進める。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校間で協議・検討する。	・これまで構築した教材データベースを発展させ、参画校の中で共同利用できる仕組み作りの検討を行う。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校間へ依頼し、開発支援を行い、順次掲載、公開に取り組む。	・参画校の中で共同利用できる仕組み作りの検討を継続し、利用の促進を図る。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校へ依頼し、開発支援を行い、順次掲載、公開に取り組む。	・参画校の中で共同利用できる仕組み作りの検討を継続し、利用の促進を図る。 ・教材開発、教材データベースに掲載するコンテンツ作成について参画校へ依頼し、開発支援を行い、順次掲載、公開に取り組む。	・取り組みを継続し、本年度の事業の振り返りとまとめを行う。 ・次年度へ向けた計画の策定。	
			A-2	・単位互換	・各校の学生が学びやすい環境を整えるため、また多様な学びができるような科目構成が構築できるプラットフォームとしての基本的な制度設立に向けた準備に取り組み、今後、本取組の課題等の検討、論点整理を踏まえ、参画校での協議を進めていく。 ・「西九州探究」に関連する科目を、各参画校が提供し、相互に利用できるような共通科目群として整備することについて協議・検討を進める。	各校の学生が学びやすい環境を整えるため、また多様な学びができるような科目構成が構築できるプラットフォームとしての基本的な制度設立に向けた準備に着手しており、本取組の課題等の検討、論点整理を踏まえ、参画校での協議を進めている。	・各校の学生が学びやすい環境を整えるため、また多様な学びができるような科目構成が構築できるプラットフォームとしての基本的な制度設立に向けた準備に取り組み、今後、本取組の課題等の検討、論点整理を踏まえ、参画校での協議を進めていく。 ・「西九州探究」に関連する科目を、各参画校が提供し、相互に利用できるような共通科目群として整備することについて協議・検討を進める。	・QSPとして多様な学修機会を提供するための単位互換制度の実現を目指し、各参画校と連携した検討を行う。 ・「西九州探究」に関連する科目の創出に取り組み、参画校間での単位互換ができるよう制度の整備を協議・検討する。	・長崎、佐賀両県の既存の単位互換制度の活用策を含めた多様な学修機会を提供するためのQSPとしての取り組みを継続して検討を行う。 ・「西九州探究」に関連する科目の創出に取り組み、多様な科目選択を参画校間で可能にし、単位互換ができるよう制度の拡充、展開を協議・検討する。	・長崎、佐賀両県の既存の単位互換制度の活用策を含めた多様な学修機会を提供するためのQSPとしての取り組みを継続して検討を行う。 ・「西九州探究」に関連する科目の創出に取り組み、多様な科目選択を参画校間で可能にし、単位互換ができるよう制度の拡充、展開を協議・検討する。	・取り組みを継続し、本年度の事業の振り返りとまとめを行う。 ・次年度へ向けた計画の策定。	
			A-3	・西九州探究(長崎学、佐賀学)	・A-2「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関連する学びができる授業科目の設置に向けた検討を参画校と一体的に議論を進めていく。	A-2「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関連する学びができる授業科目の設置に向けた検討がまだ不十分であるため、参画校と議論を進めている。 ・R7.3.20. QSP科目群創出WG運営会議開催 【協議事項】1.令和7年度WG事業計画、取組の推進について、2.単位互換、西九州探究(長崎学、佐賀学)の展開について	・A-2「単位互換」導入に向けた取り組みに合わせ、西九州探究に関連する学びができる授業科目の設置に向けた検討を参画校と一体的に議論を進めていく。	・「西九州探究」に関連する科目の創出、導入を目指し、各参画校と連携した検討を行う。 ・地域課題の探求を参画校、関係団体と連携し研究活動の実施に向けた体制の整備について検討を行う。	・「西九州探究」に関連する科目の創出、導入を目指し、各参画校と連携した協議を継続して行い、授業科目の構成、シラバスの検討等を行う。 ・地域課題の探求を参画校、関係団体と連携し研究活動の展開を支援する体制の整備について検討し、取り組みを進める。	・「西九州探究」に関連する科目の創出、導入を目指し、各参画校と連携した協議を継続して行い、授業科目の構成、シラバスの検討等を行う。 ・地域課題の探求を参画校、関係団体と連携し研究活動の展開を支援する体制の整備について検討し、取り組みを進める。	・取り組みを継続し、本年度の事業の振り返りとまとめを行う。 ・次年度へ向けた計画の策定。	
			A-4	・人材バンク、共同FDSD、人事交流	・第2期QSPの体制に合わせ、3分野に再構成した人材バンクで参画校の教職員を登録し、これまで地域の教育活動、地域活動の活性化のための人材派遣など支援を行ってきた実績を踏まえ、地域からの多様な要望に応えるため、ニーズオリエンテッドな人材バンクの活用拡大を目指し、他のWGとの連携・協働を行う。 ・プラットフォーム事業の趣旨を徹底し、QSP参画校の教職員協働での事業推進を図るための共同SD・FDを計画的に実施する。 ・QSP参画校間および組織間での教職員の人事交流(非常勤講師の派遣を含む)を活発に行っていく。	[人材バンク] QSP人材バンクを活用した人材派遣として、各種の研修会、講習会、公開講座、専門家会議等へ17件(12月末時点)の実績である。本年度、人材データベースを「教育改革プロジェクト」、「SDGs推進プロジェクト」、「国際交流プロジェクト」の3分野に整理し、登録教職員数は81名で公開を行った。 【共同SD・FD】 ① R6.8.1(木) テーマ「1. 大学におけるダイバー推進、2. ダイバーシティセンターの現状と課題」主催：西九州大学・西九州大学短期大学部 ② R6.9.12(木) テーマ「産・学・官連携による研究の実践」主催：西九州大学・西九州大学短期大学部 ③ R6.11.14(木) テーマ「留学生支援における課題と解決策-3 大学の事例より-」(オンライン形式での開催) 主催：西九州大学・西九州大学短期大学部 ④ R6.12.6(金) テーマ「数理・データサイエンス・AI教育の充実に向けた実践と課題」(オンライン形式での開催) 主催：長崎国際大学、長崎総合科学大学 ⑤ R7.3.10(月) テーマ「DXIによる大学教育の質的転換」(オンライン形式での開催) 主催：鎮西学院大学、長崎外国語大学、長崎総合科学大学 ⑥ R7.3.10(月) テーマ「数理・データサイエンス・AI」(オンライン形式での開催) 主催：鎮西学院大学、長崎外国語大学	・第2期QSPの体制に合わせ、3分野に再構成した人材バンクで参画校の教職員を登録し、これまで地域の教育活動、地域活動の活性化のための人材派遣など支援を行ってきた実績を踏まえ、地域からの多様な要望に応えるため、ニーズオリエンテッドな人材バンクの活用拡大を目指し、他のWGとの連携・協働を行う。 ・プラットフォーム事業の趣旨を徹底し、QSP参画校の教職員協働での事業推進を図るための共同SD・FDを計画的に実施する。 ・QSP参画校間および組織間での教職員の人事交流(非常勤講師の派遣を含む)を活発に行っていく。	・人材バンクの登録人材情報更新を行う。 ・人材バンク事業の充実を図り、地域の教育活動等へ利用促進のための活用策の提案、周知を行っていくとともに、関係団体や他のWGと連携しながら取り組みを推進する。 ・本年度実施する共同SD・FDのテーマ、内容、実施方法等について検討し実施計画を作成する。	・人材バンク事業の充実を図り、地域の教育活動等へ利用促進のための活用策の提案、周知を行っていくとともに、関係団体や他のWGと連携しながら取り組みを推進する。 ・実施できる共同SD・FDを順次、展開し、本事業の目的の実現に向けた検討を継続する。	・人材バンク事業の充実を図り、地域の教育活動等へ利用促進のための活用策の提案、周知を行っていくとともに、関係団体や他のWGと連携しながら取り組みを推進する。 ・実施できる共同SD・FDを順次、展開し、本事業の目的の実現に向けた検討を継続する。	・取り組みを継続し、本年度の事業の振り返りとまとめを行う。 ・次年度へ向けた計画の策定。	
			A-5	・共同IR	・プラットフォーム事業を推進するに当たり、参画校の教学に関する情報を集約、分析し、各WGが事業計画作成等に活用するための基礎資料作りを行うとともに、活動中に得られた情報を共有・公開する。	これまで継続して、QSP連携校での共同IR調査を実施し情報公開を行ってきた。 本年度、共同IR調査を実施し、R5(2023)年度分のIR資料のデータを全連携校より提供を受け、情報を集約整理し、更新したデータをQSP公式サイト上にて情報公開を行った。 このデータに基づき、連携校の学長による評価、分析コメントの取りまとめを行い、合わせて情報公開した。QSPの基盤となるIRに関する情報を共有化し、QSPとしての強みと課題を連携校にて共有、それらに対する取り組みを各WGで進めている。	・プラットフォーム事業を推進するに当たり、参画校の教学に関する情報を集約、分析し、各WGが事業計画作成等に活用するための基礎資料作りを行うとともに、活動中に得られた情報を共有・公開に取り組む。	・共同IRのデータ更新のための調査を参画校で行う。 ・共同IRのデータの集計、更新の作業を行う。	・共同IRのデータの集計、更新の作業を行う。	・更新データを取りまとめ、公開及びQSP参画校内で情報共有する。 ・更新データを取りまとめ、公開及びQSP参画校内で情報共有する。	・共同IRデータの活用について検討する。 ・次年度へ向けた計画の策定。	

令和7年度事業計画ロードマップ(進捗状況と今後の予定)

中期計画					備考	令和6(2024)年度事業計画	現在までの進捗状況	令和7(2025)年度事業計画	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
課題分野	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要								
教育改革プロジェクト	①QSP科目群としての授業の提供、または共同開発(期間中に5科目以上) ②共同FD・SD(短大系含む)の実施(期間中に15回以上) ③共同研究の実施(期間中に10件以上) ④共同IRによる共通調査等の実施(期間中に5件以上) ⑤高大接続事業(共同訪問、共同説明会等)の実施(期間中に5件以上) ⑥地元就職支援に係る地元企業との連携事業(期間中に5件以上) ⑦リカレント教育の講座等の実施(期間中に10件以上)	B・人材育成・高大連携WG(鎮西)	B-1	・「地域創生支援リーダー育成入試」	QSP構成大学・短期大学が参画できる事業へと見直しを図る。WGのもと、以下のプロジェクトチームを編成し、事業の見直し・継続の是非を検討。必要に応じWG全体会議を年3回程度、各PTを4回程度実施。進捗管理・自己評価を行う。	24年度、制度導入後初の入学者を得、キャリア育成プログラムもスタートした。	・引き続き「地域創生支援リーダー育成入試」の学生募集に合同で取り組む。 ・1・2年生対象の地域創生リーダー育成プログラムを実施。		地域創生支援リーダー育成入試 学生募集要項作成	地域創生支援リーダー育成入試 募集活動実施	地域創生支援リーダー育成入試実施	
			B-2	・合同グループ面接講座	・域内進学促進PT: 構成大学・短大の入試募集担当で編成。「地方創生支援リーダー育成入試」の継続を含め、共同入試制度の運営、学生募集活動、高大連携事業について検討	・24年度は「地域創生リーダー育成プログラム」として1年生対象プログラムを実施	・「地域創生リーダー育成プログラム」として1・2年生対象プログラムを実施			1・2年生プログラム実施		
			B-3	・合同企業説明会	・地方創成人材育成PT: 構成大学・短大の就職・キャリア支援担当者、自治体、産業界で編成。就職試験対策講座、合同企業説明会等の企画運営。	・「地域創生リーダー育成プログラム」3年生対象プログラムとして23年度企業見学会、24年度合同企業・事業所説明会を実施	・引き続き「地域創生リーダー育成プログラム」3年生対象プログラムを実施。		3年生対象プログラム実施			
			B-4	・リケジョ事業	・リケジョ事業PT: 西九州大学、佐賀大学、佐世保高専、長崎国際大学により編成。「リケジョプロジェクト」を企画運営。女子中高生の理系進路選択支援プログラムの(JST採択事業)推進。	・佐賀大学、西九州大学、長崎国際大学、佐世保高専、久留米工大4校合同の「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」にて、実験体験会等を企画、実施 ・R6年6月29日「女子中高生のための！リケフェスin SASEBO」 ・R6年10月27日「リケフェス2024inSAGA」	引き続き実験体験会等のイベントを企画・実施	イベント企画・実施	イベント、アンケート結果報告	イベント企画・実施	イベント、アンケート結果報告	
			B-5	・リカレント	・各大学主催のリカレントに関する講座の取りまとめと広報活動 「社会人向けキャリア形成支援」 「社会人キャリア形成プログラム講座」	・「セルフ・キャリアドック面談」R5年度から継続 ・「ノーコードアプリ公開講座」9月(実施)、2月(実施) R7.2.15「生成AIに触れてみる」(外大、鎮西、新上五島町) ・「ノーコードアプリ公開講座」	・各大学主催のリカレントに関する講座の取りまとめと広報活動 ・「セルフ・キャリアドック面談」の実施 ・「ノーコードアプリ公開講座」	・「ノーコードアプリ公開講座」の企画	・「セルフ・キャリアドック面談」関係者との協議 ・「ノーコードアプリ公開講座」の実施(全2回)	・「セルフ・キャリアドック面談」各対象者と面談2回、報告会 ・「ノーコードアプリ公開講座」の効果検証	・「ノーコードアプリ公開講座」の効果検証	
		C	C・短大系WG(佐女)	C-1	・キャリア教育(短大フェス)	・キャリア教育(短大フェス)	新たな形でのキャリア教育として、合同でのリーダーシップ研修を検討した。	合同のキャリア教育(リーダーシップ研修)の実施	リーダーシップ研修の開催準備	リーダーシップ研修の開催	リーダーシップ研修の振り返りと次年度開催に向けての検討	
		C-2		・短大共同IR	・短大共同IR	R7.1-3:R6 在学生調査(短大WG)	これまでに蓄積した在学生調査、卒業生調査のデータの分析を行なうとともに、それらをふまえた卒業時調査、就職先調査、高校調査等の共同IRの実施に向けて、検討を行なう。		データの分析と今後の共同IRに向けての課題の抽出、調査の設計・質問項目の検討		データの分析と今後の共同IRに向けての課題の抽出、調査の設計・質問項目の検討	
		C-3		・広報	・広報力・教育力	R7.3月に合同のFD/SD研修会の実施。テーマ:ハラスメントへの対応、アンガーマネジメント。 ・R7.3.28「職場のハラスメント」(佐賀女子短大、九州龍谷短大)	地方短大の維持発展のための、合同FD/SD研修会のテーマの検討と実施	FD/SD研修会のテーマの検討		FD/SD研修会の実施		

令和7年度事業計画ロードマップ(進捗状況と今後の予定)

中期計画					備考	令和6(2024)年度事業計画	現在までの進捗状況	令和7(2025)年度事業計画	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
課題分野	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要								
SDGs推進プロジェクト	⑧ 共同公開講座の実施(年5件以上) ⑨ 健康増進事業の実施(期間中に10件以上) ⑩ 自治体、地場産業、地場企業からの課題解決にかかる受託事業等(期間中に5件以上) ⑪ 自治体、地場産業、地場企業とのWGの組成(期間中に5件以上) ⑫ 施設・設備の共同利用による取組の実施(期間中に10件以上) ⑬ 初中等教育関連教材の開発(期間中に4本以上) ⑭ 初中等教育関連支援活動の実施(期間中に10件以上)	D・健康・福祉推進WG(西九)	D-1	ウォーキングで健康イノベーション		史上最高の参加人数と高校生ボランティアとなった令和5年度の経験を活かし、「ウォーキングで健康イノベーション」事業概要、事業計画名のもと、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2024in佐賀」(仮称)の開催 ・佐賀市とのコラボによる「QSP健康ウォーク」(仮称)の開催	令和6年12月8日、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2024in佐賀」を開催した。スポーツ健康福祉学科学学生より歩き方について指導後、約3.5kmのコースをスタンパラー形式で歩いていただいた。本会場である「ここらざのもり」には、地域の大学・短期大学発のコンテンツ(健康チェック、脳トレ体験等)を体験できるブースを設置し、参加者の方が、学生たちと一緒に楽しく健康習慣を確立するためのきっかけづくりを行った。寒暖差の厳しい天気であったが、253人の方にご参加いただくことができ、高校生ボランティアや留学生を含めた大学生スタッフとのコラボで、大変な賑わいとなった。	佐賀市内での多数のイベントが開催されていたにもかかわらず、250名以上の一般参加者と60名以上の高校生ボランティアが参加したという令和6年度までの経験を活かし、「ウォーキングで健康イノベーション」事業概要、事業計画名のもと、連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2025in佐賀」(仮称)を開催 ・佐賀市とのコラボによる「QSP健康ウォーク」(仮称)の開催	SDGs推進プロジェクト連携校との「QSP健康ウォーク2025in佐賀」(仮称)の開催に関するコンセンサスをとる ①これまでのウォーキングイベントのまとめと予算措置などの検討 ②佐賀県商工会議所への協力依頼を始める	①本事業(ウォークラリー)がサステナブルとなるための計画のさらなる見直しを実施 ・本事業(ウォークラリー)の会場設営、ウォーキングルートおよび参集範囲の再検討する ・本事業(ウォークラリー)の予算、主催者の人的労力負担の見直しを実施	①参加校が実施する各ブースの健康測定サービスや栄養指導などのサポート体制を整える ②参画校の学生や佐賀県内の高校生ボランティアと参加者との交流の場を設定する	連携大学、短期大学、佐賀県内の高校生ボランティア、佐賀県商工会議所連合会各種企業および佐賀県とのコラボによる「QSP健康ウォーク2025in佐賀」(仮称)の成果のまとめと次年度に向けた計画作成
		E・地域産業振興WG(総大)	E-1	観光・まちづくり事業	地域の観光・まちづくりに関するコンテストやセミナーを開催する。修学旅行向けの研修素材を検討する。	産学官連携(JTB×大学生×長崎市まちづくり部)を行い、ユネスコのESD(持続可能な開発のための教育)を基軸に、全国初となる大学生がガイド×メンター×探検者として修学旅行生と長崎市内を学びながら回遊する「地域課題解決型修学旅行プログラム」の販売戦略策定、収支を含めた具体的な商品企画、高校生との実証実験を実施した。	2025年度より、産学官連携の枠組みに長崎市DMO、県観光連盟、NTTグループも参加して、長崎市版ESD=NESDモデルを創造し「地域課題解決型修学旅行プログラム」の戦略をもとに、観光人財育成とコンテンツを以下の4つのメニューとして具体的な磨き上げを実施、商品販売活動まで実施する。①歴史文化、②平和学習、③脱炭素エネルギー、④限界集落の交流。	【産学官連携基盤創造】JTB、長崎市、長崎市DMO、県観光連盟、NTTグループと連携し市場調査(マーケティング)・ビジョン・戦略・商品化スキーム作成	【マーケティング・セミナー実施】 ①修学旅行校教員、生徒、県内高校体験学習のモニターツアー実証実験実施。 ②産学(本学)官共催「地域課題解決型修学旅行戦略・観光人財セミナー」実施。	【実証実験モデル検証】モニターツアーの検証と評価を行い、課題の抽出と検証、収支、コンテンツなど具体的な商品の磨き上げ実施	【組織化と次年度行動策定】次年度に向けた具体的な行動計画策定、産学官によるセールスと本学を中心にQSP大学生の組織化の検討と準備を行う。	
		E-2	地場産業振興(窯業他)	ドローンを用いた生産管理計画をたて、実証実験を行う。	ドローンを用いた実証実験を行った。1台、200m、800gで行った。	ドローンを用いた生産管理計画をたて、実証実験を行う。	PCを用いて飛行シミュレーション	生産計画策定	ドローン輸送実験準備	ドローン輸送実験		
		E-3	創業支援	長崎市内大学ビジネスプランコンテストを開催する。長崎県ビジネスプランコンテストの予選も兼ねる。	8月3日に開催し、9月に行われた県のビジコンに参加、準グランプリを獲得した。	学内ビジコンの開催、県ビジコンへの参加	学内ビジコン準備	準備と開催	県ビジコン参加	学内創業に向けた支援		
		E-4	小中学生向け体験教室	ものづくりやプログラミングの体験教室を開催する。	8月4日に開催し、終了した。	プログラミング体験を含むものづくり体験教室を開催する。地元企業に加えて、QSP参画機関にも参加を呼び掛ける。	体験教室の準備	体験教室の参加者募集と実施	体験教室報告書の作成と評価	次年度に向けた改善点の検討		
		E-5	ICT教育	・実用ドローン関連講座	未着手	F-5とF-6を通貫する取組として、ICT技術の一部含むDXによる各大学の教育の質転換を支援し、取組状況の社会への発信を実施するほか、加盟各校のデータサイエンス教育への取組状況の調査と「数理」・データサイエンス・AI教育」認定校の増加を目指す。現在、QSP参画校のうち6校は認定済	教育DX・数理データサイエンスAI教育に係る加盟校の状況調査	教育DX・数理データサイエンスAI教育に係る加盟校の先進取組事例の共有(FD・SDの実施と自治体・産業界への情報発信・意見聴取)	教育DX・数理データサイエンスAI教育に係る加盟校担当者間の勉強会の実施	当年度事業の効果検証、次年度事業計画作成		
		F・子ども育成WG(長短)	F-1	共同研究「幼児教育等家庭支援」	令和6年度に追加で実施した保育者へのインタビュー調査と子どもの行動観察の本調査を実施する。また、昨年度作成した事業報告書をもとに、学会発表や地域の保育所に報告会等を実施していく予定である。	現在、保育者へのインタビュー調査、子どもの行動観察を実施中である。1月にデータの収集と分析を終え、2月に報告書を作成、3月に発刊。	令和6年度第2回WG会議において、令和7年度以降は、「保育・幼児教育現場における子ども家族の多様化、それに伴う新たな人材の育成」というテーマでの共同研究を検討予定である。	・令和7年度第1回WG会議 ・共同研究会議 1)研究テーマ、内容についての検討・精査 2)事業計画作成	・研究計画の作成	・研究実施	・研究実施	
		F-2	子ども発達支援士養成プログラム	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育)の実施。大学コンソーシアム佐賀を構成する(放送大学を除く)5つの連携校にて研修日程を調整して実施。	今年度の卒後研修は終了している。今後は部会にて次年度の研修日程を計画予定。	子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育)の実施。大学コンソーシアム佐賀を構成する(放送大学を除く)5つの連携校にて研修日程を調整して実施。	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育) 1)研修日程の決定 2)R7年度生募集	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育)の実施状況について、必要に応じてWG等との情報共有を行う。 ・卒後研修の実施。	・子ども発達支援士養成プログラム(卒後研修・リカレント教育) 1)報告と次年度方針を協議共有を図る。			
		F-3	子ども育成リレー講座	子ども育成に関わるテーマを設け、子ども育成WG参画校で公開講座をリレー形式で開催する。	令和6年度第1回子ども育成WG会議にて、案内チラシ完成及び広報開始。リレー公開講座全9講座(2月まで)実施。第2回会議にて、R7年度の講座について、企画検討した。(2月開催)	子ども育成WG参画校で子ども育成に関わる内容の公開講座をリレー形式で開催する。	・令和7年度第1回WG会議 1)案内チラシ完成 2)参加者募集開始	・リレー講座実施 ・アンケート調査	・アンケート集計(子ども育成団体・行政も交えた検討会)	・令和7年度第2回WG会議 1)令和8年度計画		

産学官連携によるモデル創造・県内にとどまる観光人財育成システム構築

令和7年度事業計画ロードマップ(進捗状況と今後の予定)

中期計画					備考	令和6(2024)年度事業計画	現在までの進捗状況	令和7(2025)年度事業計画	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
課題分野	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要								
国際交流プロジェクト	⑯留学生支援事業の実施(期間中に5件以上) ⑰留学生交流事業の実施(期間中に5件以上)	G・留学生支援WG(外大)	G-1	【留学生受入れ支援】 A: 共同学生募集 ・共同多言語パンフを作成しHPに掲載 ・海外共同学生募集活動の展開(現地日本語教育機関等) ・在学生・卒業生サポーターによる各大学等のPR発信(サポーターに報酬支給) B: 域内進学促進	A 海外共同学生募集の実施 A-1 実施方案の検討 A-2 試行的実施 A-3 振り返り B 域内進学時転居費用一部助成の検討 B-1 QSP事務局との折衝 B-2 実施方案の検討	A 共同学生募集として、各校留学生募集要項のHP掲載を継続実施した。Bは現状で財源の問題が解決できておらず、当初計画の修正を検討したい。	A ・共同学生募集(HP)継続と対象校拡大 ・H-4海外同窓会参加者による各校の魅力発信事業の実施 B 【当初計画修正】財源の問題に鑑みいったん削除	A ・留学生募集情報のHP掲載に係る構成各校への照会	A ・共同学生募集HPのアップデート	A ・海外同窓会参加者による魅力発信の実施	A ・海外同窓会参加者による魅力発信の実施	
			G-2	【日本語教育支援】 A: 日本語教育ピアサポーターの育成 B: 日本語教育リソース共同開発	A 留学生オンラインピアサポートの実施 A-1 実施方案の検討 A-2 試行的実施 A-3 振り返り B 日本語教育リソース共同開発の再検討 B-1 中期計画の修正検討 B-2 中計修正案のQSP全体会議上程 B-3 実施方案の検討	WG内の意見調整を経て、QSP事務局とWG長校との間で中期計画の修正に向けた検討を行った。R5年度外部評価委員会講評においてご指摘のあった通り、本項についてはその実現可能性に鑑み、当初計画の修正を行い、事業計画を練り直すこととした。	【当初計画修正】 ゼロベースでの計画の見直しと新規事業案の策定(可能であれば試行的実施) (検討の方向性)大学・短大での日本語教育のみならず地域社会への効果波及を志向。外国人材の受入れを行う産業界等との連携や日本語教育専攻の学生の就業体験等	行政・産業界の意見聴取	WG会議(当初計画修正の検討)	WG会議(試行的実施事業の企画立案検討)	(可能であれば)試行的実施	
			G-3	【国内キャリア形成支援】 A: 佐賀県・長崎県内企業とQSP内留学生とのマッチング促進 ・留学生スカウトイベント ・卒業生による企業PR発信(QSP外の大学等への展開も検討) B: 佐賀県・長崎県内企業卒業生の定着促進支援(定着阻害要因の分析、課題解決のための共同講座等の実施)	A・B 国内キャリア形成支援事業の検討 1 行政・経済団体との合意形成に向けた検討(WG会議) 2 QSP事務局との折衝 3 実施方案の検討	WG長校にて年度末までに長崎県所管部局・産業界と協議調整を行う予定としている。可能な限り早期の実施に向けて継続検討。	・佐賀県及び佐賀県内産業界の意見聴取 ・実施方案の検討 ・地場企業と留学生とのマッチングイベントの試行的実施 ・効果検証と次年度計画の策定	自治体・産業界等への意見聴取	実施方案の検討	地場企業・留学生マッチングイベントの試行的実施	効果検証と次年度計画の策定	
			G-4	【国外キャリア形成支援】 A: 学修歴デジタル証明 B: 母国内同窓会の組成(卒業後紐帯維持、佐賀県・長崎県の魅力発信の担い手、上記G-1「サポーター」への循環も)	A デジタル証明発行システムの継続検討 A-1 課題解決策の検討 A-2 QSP事務局との折衝 A-3 QSP全体会議への再上程 B 海外同窓会イベントの実施 B-1 実施方案の検討 B-2 試行的実施 B-3 振り返り	A 私立大学等改革総合支援事業の設問変更もあり、事務共同化のニーズが減退した。またデジタル証明発行システム導入に係る財源の問題について検討を進展させられなかった。 B R7.3.15に中国上海において海外同窓会イベントを実施。パイロットケースとして長崎外国語大学上海教育事務所が主管してQSP構成校の同窓生の参加も勧奨する。会の中で同窓生間の紐帯強化のほか、各母校の高等教育機関としての魅力再発見に繋がるような仕組みを構想中。	A 【当初計画修正】今後事業ニーズの精査を要するほか、財源の問題に鑑みいったん削除 B ・中国上海市の海外同窓会の継続実施 ・海外同窓会参加者による「G-1各校の魅力発信事業」の実施	B 海外同窓会前年度実施分の効果検証と改善策の策定	B 海外同窓会今年度分の実施方案の企画立案	B 海外同窓会実施	B 海外同窓会参加者による魅力発信の実施	
	H・留学生大交流WG(西)	H-1	・ACC(アジアンコミュニティカフェ)	1 本事業実施に向けた合意形成 2 配分予算に係る協議 3 企画書提出 4 企画の実施 5 報告書の提出 6 次年度に向けた企画提案 7 「QSP異文化理解教室:小学生と留学生との交流」の継続実施(唐津市立厳木小学校・佐世保市内の学校)	・ACC(アジアンコミュニティカフェ)	1 本事業実施に向けた合意形成 2 配分予算に係る協議 3 企画書提出 4 企画の実施 5 報告書の提出 6 次年度に向けた企画提案 7 「QSP異文化理解教室」の継続実施	・具体的な事業実施内容の検討(継続する事業/新規事業等) ・令和6年度に実施延期となった事業の確認 ・予算に関する協議 ・予算案の決定と提出 ・事業企画書の提出	・事業の実践 ・終了した事業報告書のまとめ(各担当者) ・予算の執行	・事業の実践状況の確認 ・事業の変更等の中間確認(12月) ・予算執行状況の中間確認(12月) ・必要に応じて予算の再分配等の検討	・事業の実践 ・各事業報告書のまとめ ・次年度に向けた事業計画の作成 ・事業ごとの支出及び残高のまとめ ・次年度予算の検討 ・「R7自己評価」作成 ・「R8事業計画」作成 ・「R8事業企画書」作成		
		H-2	・異文化理解教室		・異文化理解教室/異文化料理教室							
		H-3	・英語イマージョンデイキャンプ		・英語イマージョンデイキャンプ							
		H-4	・佐賀国際フェスタ		・佐賀国際フェスタ							

令和7年度事業計画ロードマップ(進捗状況と今後の予定)

中期計画					備考	令和6(2024)年度事業計画	現在までの進捗状況	令和7(2025)年度事業計画	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
課題分野	課題の数値目標	WG名	No.	事業の概要								
中期計画策定・点検評価委員会	①各プロジェクト及びワーキンググループにおける指標達成の管理と評価を行う。 ②中期計画全体の進捗管理と評価(各年度に実施、中間評価を3年目に実施し、最終評価は最終年度に実施する)	中期計画の策定	I-1	中期計画を取りまとめる	第2期中期計画初年度である令和5年度の実績、取組状況を確認し、第3期を視野に入れながら適宜修正を図る。	令和7年度より、九州龍谷短期大学の退会のため、11校、3自治体、2経済界、計16参画機関の新体制でWGを再編し、第2期中期計画を改訂する。	第2期中期計画令和5,6年度の実績、取組状況を確認し、第3期を視野に入れながら適宜修正を図る。	事業実施状況記録・確認	同左	同左	同左	同左
		進捗管理	I-2	中期計画に記載した各事業について、ワーキンググループと連携して、進捗状況を把握・管理する。	第2期中期計画2年度の進捗、目標管理を行う。	R6.10 私立大学等改革総合支援事業タイプ3申請 R6.12 第2期初年度令和5年度の係数を確認(学校基本調査等) R7.03 事業推進協議会兼中期計画策定・点検評価専門委員会にて全体自己評価	第2期中期計画3年度の進捗、目標管理を行う。	事業実施状況記録・確認	同左	同左	同左	同左
		中間報告書の作成	I-3	中間外部評価を受けるための中間点検評価報告書を取りまとめる。	中間報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	令和5年度事業実績、自己評価を取りまとめ、R6.7.1外部評価委員会に報告、R6.9.25講評を受け、QSPウェブサイトへアップした。令和5~6年度、WGの実績を取りまとめた。	中間報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	中間報告書(R5-7)作成のため実績とりまとめ	同左	同左	同左	同左
		最終報告書の作成	I-4	最終外部評価を受けるための最終点検評価報告書を取りまとめる。	最終報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	同上	最終報告書作成に備え、令和5、6年度実績を取りまとめる。	中間報告書(R5-7)作成のため実績とりまとめ	同左	同左	同左	同左
		外部評価の実施	I-5	外部評価の企画・準備・対応を行う。	外部評価を受けるため、各WGの自己評価を取りまとめる。	令和6年7月1日令和6年度外部評価委員会を開催し、令和6年9月25日講評にて令和5年度活動実績の評価(A評価)をいただいた。	外部評価を受けるため、各WGの自己評価を取りまとめる。	外部評価委員会の開催準備	外部評価委員会開催	外部評価委員には会議資料等適宜進捗を報告	同左	
		中期計画の改定	I-6	事業の進捗により中期計画の修正が必要になった場合に、改定作業を行う。	第2期中期計画の事業進捗、参画機関の動きに合わせ、適宜協議のうえ改定する。	令和7年度より、九州龍谷短期大学の退会のため、11校、3自治体、2経済界、計16参画機関の新体制でWGを再編し、第2期中期計画を改訂する。	第2期中期計画の事業進捗、参画機関の動きに合わせ、適宜協議のうえ改定する。	同左	同左	同左	同左	同左
		次期計画の検討	I-7	本中期計画の終了後の事業の継続・発展のための次期計画について検討を行う。	各年度の事業実績について、課題を確認しながら次期中期計画策定に備えていく。	九州龍谷短期大学退会に伴う、第2期中期計画の改訂を取りまとめた。	各年度の事業実績について、課題を確認しながら次期中期計画策定に備えていく。	同左	同左	同左	同左	同左
プラットフォーム事業全体					新たにスタートした第2期中期計画の進捗状況を見ながら、令和6年度事業を実施する。		第2期中期計画2年間の進捗状況を見ながら、令和7年度事業を実施する。	会計監査(西九州短期大学部、鎮西学院大学)会費100万円/私立校、WGへ再委託	外部評価委員会開催 令和7年度改革総合支援事業申請準備	令和7年度改革総合支援事業申請	令和7年度自己評価、令和8年度事業計画、予算策定	